

放牧場産子と一般肥育素牛との産肉能力調査

福島県畜産試験場沼尻支場

平成13年度畜産試験場試験成績概要

1 部門名

畜産－肉用牛－放牧・畜産栄養

分類コード 07－02－50390000

2 担当者

古閑文哉、佐藤茂次、高萩淳子、小林 準

3 要旨

放牧場産子は、県内子牛セリ市場において発育が劣っているため市場評価が劣る状況があった。よって放牧場産子の市場評価向上のためには、10ヶ月齢までの育成方法の確立と、その後の肥育成績が舎飼育成された肥育素牛と同等であることが求められる。

本課題においては、2タイプ（肥育前期粗飼料多給型・濃厚飼料多給型）の給与体系により、放牧場産子と一般肥育素牛との発育及び産肉能力について比較検討した。

(1) 飼料摂取量についての比較

1999年度開始の放牧育成区は、舎飼育成区を比較して肥育中期以降より、濃厚飼料、粗飼料ともその摂取量が上回った。2000年度開始の放牧育成区は、舎飼育成区と比較し肥育全期間を通して濃厚飼料、粗飼料ともその摂取量が上回った。両年ともに放牧育成区は肥育課程の前半において粗飼料の摂取量が多い傾向がみられた。

(2) 発育についての比較

1999年度開始の放牧育成区は、14ヶ月齢までには舎飼育成区に追いつき、出荷時まで高い発育を示した。2000年度開始の放牧育成区については、20ヶ月齢までには舎飼育成区に追いつき、出荷時まで高い発育を示した。

(3) 枝肉成績についての比較

1999年度供試牛は両区とも同程度の成績で、放牧育成区が枝肉重量の成績について高位の斉一性を示した。2000年度供試牛について放牧育成区は、昨年と同程度の成績であるが、やや斉一性の面で昨年度より劣った。また、出荷した牛の内蔵所見は両区とも異常は認められなかった。なお、両年とも全国及び県の平均値と比較しても同等ないしそれ以上の成績が得られた。

以上のことから、放牧育成された肥育素牛は、育成期より豊富に粗飼料を摂取しているため、肥育後半まで飼料摂取量が持続し、高い発育が得られる。また枝肉成績についても、子牛セリ市場で流通している一般肥育素牛の肉質及び歩留成績が得られることが示唆された。

4 その他の資料等

なし